

姫路にて冬の学習会を開催しました

1月28日（土）に姫路市市民会館にて冬の学習会が行われました。多くの先生方にお集まり頂き、熱気あふれる研修になりました。

皆さんからお寄せいただいたアンケートをもとに、講座の様子をご紹介します。

参加者の感想など

「乳幼児の語彙の獲得」

（講師 慶応義塾大学環境情報学部

教授 今井 むつみ先生）

講演についてのご意見、ご感想

- 子どもを主体としたことばの育て方を話された内容にとっても共感し、自分の実践の見直しと自分が信念として持っていることの裏付けをしてもらえたように思います。
- これまで、お母さん方に話してきたことの理論的な裏付けが得られたこともたいへんありがたかったです。最後に話題になっていた早期教育のメソッド作り、なんとか実現してほしいと思います。
- 子どもが言葉を習得していく状況を母語以外の言語を学習する際と比較して、子どもが言葉を習得していく状況がよく分かった。子どもには確かにオノマトペを使い、その動きの意味を伝えているのでそれが発展していくことが、その動作の言葉につながっていくことが再認識できた。
- 小さい子どもの言語発達についてお話を聞く機会は少ないので、興味を持って参加させていただきました。質の良いインプットが大切というお話を伺い、聾教育（幼児教育）で大切にしなければいけないことだと改めて感じました。やはり難聴児は聞こえの問題があるので、どのように正確（明瞭）な音声言語を届けるかとの両論だと感じました。
- 子どもと接している中で言い間違いもよくあります。「間違っただけ」に対して、教師は教えなければ！とってしまうのだと思います。手話では「うれしい」も「たのしい」も同じです。その違いも学習場面だけで理解することは難しい。子どもたちが成長していくなかで、そういう感情になったときに気づいていくものなのですね。「質のよい言葉かけ」意識して子どもたちと接していきたいです。ありがとうございました。
- 現在小学部低学年を担当しています。講演を聞き、実際に担当している子どもの様子を思い浮かべていました。言葉の指導で子どもと“間違い”に向き合うとき、どのように対応したらいいのか悩んでいました。「言葉を対比する」「子どもとの対話」というお話から、子ども



たちもって顔を合わせて話そうと思いました。「発見する授業」を少しずつ意識して、実行したいと思います。

- 聴覚障害児教育の特に早期教育を今回の今井先生のお話に沿ってエビデンスを持って改革していくと、子どもの言語や思考力、人間としての成長はさらに望めるのではないかと思います。私たちが先生のお話にあったように自己効力感や学ぶ喜びを持ち、子どもたちに指導したいと考えさせられました。
- 教育者はサポート環境を作ることができる言語だけでなく、すべてに共通することだと思いました。教えて教員が満足するのではなく、自己効力感が生徒にもてる、自覚できるような環境を心がけたいと思います。
- 言語をヒトがどのように獲得するのかの話、とても興味深かったです。そして、言語とはシステムなのであり、自分で発見→修正→運用してシステムを構築していくことをはっきりと



知ることができました。就学前の親子関係の大切さ、そしてそれを伝えたり、意識を変えたりするには、私たち自身が、状況と言葉を結びつけるなど言語環境を豊かに構成し、その中で、face to faceの対話を増やすことだと肝に銘じて、明日からの教育活動に活かしていきたいと思いました。

☆☆1年間、近畿教育オーディオロジー研究協議会の講演会、講習会に参加していただきありがとうございました。来年度もどうぞよろしく願いいたします☆☆

平成29年度の予定

- 平成29年 8月8日(火) 講習会(大阪府立生野聴覚支援学校)
8月9日(水) 総会・夏の講演会・全体講習会(ホテルアウィーナ大阪)
講師: 福島 邦博 先生 (新倉敷耳鼻咽喉科クリニック 院長)
中瀬 浩一 先生 (同志社大学 教育支援機構免許資格課程センター 准教授)
※講演会・講習会の日程順が例年と違います。
- 11月3日(祝・金) 秋の講演会(大阪府社会福祉会館)
講師: 石原 保志先生(筑波技術大学 副学長)

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局 事務局長 安川 恵理
〒655-0013 TEL: 078-709-9301
兵庫県神戸市垂水区福田1-3-1 FAX: 078-709-0371
兵庫県立神戸聴覚特別支援学校内 メール: kinki02062@hotmail.co.jp